

富山市定例市長記者会見（令和3年6月3日）

■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。市長の藤井裕久です。

今日は報道関係者の皆さんには、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

それでは、定例記者会見の説明を始めさせていただきますのでよろしく願いいたします。

■令和3年6月補正予算(案)の概要について

市長

まず、6月補正予算案の概要について説明します。

記者発表資料1「令和3年6月補正予算(案)の概要」をご覧ください。

まず、補正予算額の規模ですが、一般会計では、24億4,800万円余り、特別会計では、企業団地造成事業特別会計と牛岳温泉スキー場事業特別会計を合わせて、19億7,600万円余りとなっております。

一般会計の予算規模としましては、6月補正で見ますと、市町村合併以降3番目の大きさになります。

次に、補正予算の内容について、主なものを項目別に説明します。

最初に、①選挙公約に関連した事業についてですが、まず、富山市版スマートシティを推進するためのビジョン策定の予算を計上しております。

これは、本市のコンパクトシティ政策のさらなる深化に向けて、ICT等の新技術を活用しながら、目指すべきまちの将来像を描くものであります。

私が考える今後のまちづくりにおいて重要な位置づけとなるビジョンであるため、いち早く取り組んでまいりたいと考え、6月補正予算(案)に計上したものでございます。

その下のキャッシュレス決済ポイント還元事業から農林水産物ワンデージャックフェスタまでにつきましては、私が公約で緊急政策テーマに掲げておりました「コロナに打ち勝つ！」にあたる事業であります。

コロナ禍において、厳しい状況下にある飲食店などの事業者の皆様を支援するため、市独自の取組みとして予算計上するものであります。

いずれも、昨年度、経済対策の一環として実施した事業であります。内容を見直し、より事業効果が期待できるものにしてまいりたいと考えております。

その他の新型コロナウイルス感染症関連につきましては、次の②に主な事業を挙げております。

一番上の「新型コロナウイルス感染症対策基金積立金」につきましては、まず、私を含めた特別職の6月支給分の期末手当について、新型コロナウイルス感染症に対応するための財源を生み出すため、私につきましては20%、その他の特別職につきましては10%を減額することとし、関係条例を先月28日に専決処分させていただきました。

また、市議会の方からも、6月支給分の期末手当を10%減額し、基金に積み立ててほしいとの申し入れがありましたことから、私どもと同様に関係条例を専決処分しております。

こうしたことから、今回の6月補正予算（案）におきまして、私を含めた特別職分の117万4千円、議員分の445万4千円、合わせて562万8千円を、また、ふるさと納税や法人からご寄附いただきました968万9千円を新型コロナウイルス感染症対策基金に積み立てるものであります。

4つ目のワクチン接種業務委託料につきましては、集団接種会場の開設などの接種体制を強化するための経費を計上しており、接種にあたる医療従事者の方や、県などの関係機関とも連携して、今後もしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

その2つ下、子育て世帯生活支援特別給付金につきましては、4月臨時会において、ひとり親世帯を対象とした給付金について補正したところでございますが、今回は、ひとり親世帯以外の世帯を対象とした給付金について国の制度が固まりましたことから、児童一人あたり5万円を給付することとして、関係予算を計上するものであります。

他にも、PCR検査委託料などを計上しており、新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、ワクチン接種を確実に進めるなど、県とも連携して国に支援策を求めることなども含めて、感染防止対策に万全を期すとともに、効果的な経済対策に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、③いわゆる「肉付け予算」の事業についてご説明申し上げます。

「肉付け予算」と申しているものは、当初予算編成の際に市長の政策的な判断が必要だった事業のうち、新市長が判断して予算付けすることが適当だとして、当初予算に計上されていなかったものですが、政策の継続性などから考えまして、今回の補正予算に私の判断で計上する事業になります。

主な事業を申し上げますと、一番上、企業版ふるさと納税を促進するためにマスメディアと連携する事業や、4つ下、自転車損害賠償責任保険への加入を促進するため、1件あたり500円とする新たな補助金、さらに5つ下、第4期中心市街地活性化基本計画を策定するための経費、その2つ下、小学校における外国語科などの外国語教育の指導充実を図るため、外国語指導助手の配置を増員する経費などを計上しております。

資料の2ページ目をご覧ください。

その他の事業として、国・県などの補助金の追加承認に伴うものや、昨年度の大雪被害の復旧事業、水橋地区の義務教育学校の設置にあたり、来年4月の一次統合に向け、上条地区のスクールバスの待合所や児童健全育成室を整備するための予算などを計上しております。

6月補正予算（案）に関する説明は以上になりますが、詳細につきましては、既に配付しております議案説明資料も参考にさせていただき、それぞれの担当課にお聞きいただきたいと思います。

なお、選挙公約に関連した事業についてであります。現在、4月の市長就任以降、各部局から事業内容や懸案事項等について説明を受けるなど、まずは市の抱える問題をしっかり把握するよう努めている状況でございます。

その上で、私が掲げた公約を実現するためにどういった事業が必要か、じっくりと検討すべきであると考えております。

こうしたことから、今後、政策決定ができたものから順次、公約に関連した事業を提案してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

■ 新型コロナウイルスワクチンの接種状況について

市長

新型コロナウイルスの感染拡大を抑え、市民の生命及び健康を守るとともに、社会経済活動との両立を図る上で、対策の切り札となるのがワクチン接種であります。

このことは全国で進められているわけですが、本市でも、4月12日に始まった一部の高齢者施設でのワクチン接種に加え、5月17日からは一般高齢者の方々に対する接種がスタートしたところであります。

さて、昨日までの本市の接種状況につきましては、こちらの掲示板のとおり、1回目の接種を受けた高齢者の方は20,251人、2回目の接種を終えられた高齢者の方は521人となっており、それぞれ高齢者人口の約15.9%、約0.4%であります。

今回のワクチンは3週間間隔で2回接種する必要がありますので、現在、一般高齢者の方は1回目接種のみとなっておりますが、今後6月7日の週からは、2回目の接種が始まりますので、接種回数も一段と増えていくものと考えております。

本市の高齢者へのワクチン接種につきましては、当初は8月中の接種完了を目標としておりましたが、4月23日の菅総理大臣の記者会見での発言を受け、7月末までに希望される全ての高齢者への接種を目指すことといたしました。

これにつきましては、市医師会をはじめとした医療従事者の皆さんなどとしっかりと連携し、更なる接種体制の強化を図ることとしております。

本市でも接種体制強化の一環として集団接種の拡充を進めており、5月17日にはまちなか総合ケアセンターなど、5会場、延べ20日間の巡回接種について発表したところであります。

その後、富山国際会議場を会場とした延べ6日間、1,350人分を追加いたしました。この度、更なる追加として、テクノホールを会場とした延べ4日間、2,100人分の集団接種を実施することといたしましたのでご報告いたします。

なお、7月3日、4日に1回目接種を実施するテクノホール分の予約は、6月5日に予約受付を再開する市予約・相談センターにおいて取り扱うこととしております。

これらの集団接種会場の追加開催にあたりましては、富山大学をはじめ富山赤十字病院などの公的病院、富山市医師会の皆様方の献身的なご協力をいただきましたことに対して、心から感謝を申し上げます。

本当にありがたいと思っております。

また、今後の接種スケジュールにつきましては、高齢者に続く優先接種順位にあたる、基礎疾患のある方、高齢者施設等に従事していらっしゃる方、そして60～64歳の方への接種券を7月下旬に発送したいと考えております。

こちらのフリップですが、これは市のホームページにも出ており、逐一、情報をお伝えしておりますが、このように7月下旬に接種券の送付を始めたいと考えております。

なお、市では基礎疾患の有無といった情報を保有していないというのが現実でありますので、該当となる方につきましては、6月1日から6月15日までの間に、郵送やインターネットから申請いただくことにより、一般の方より先に接種券を発送いたします。

それ以外の60歳未満の方につきましては、年齢区分に応じ、8月以降に段階的に発送してまいりたいと考えており、詳しいことが決まり次第、市広報やワクチン接種の特設サイト等でご案内したいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

私からの説明は以上になります。

■ 質疑応答

記者

高齢者を対象とした新型コロナウイルスのワクチン接種が5月17日に始まりました。この高齢者に対するワクチン接種について、5月6日の会見で市長は「7月末の完了を目指す」と発言されましたが、現状の接種体制や予約状況などを踏まえて、それは実現可能な目標なのか、率直にお聞かせください。実現するための新たな取組みなどがあれば、合わせてお聞かせください。

市長

今ほど発表項目としても申し上げたところですが、本市の高齢者へのワクチン接種スケジュールにつきましては、当初は国資料で示された12週間での完了との考え方のもと、一般高齢者への接種開始日である5月17日から12週間、つまり、8月中の接種完了を目途としていたところであります。

しかし、先ほども申し上げましたが、その後、菅総理大臣から「7月末までに（高齢者への接種を）完了せよ」という要請がありましたので、県そして富山市もスクラムを組んで、その目標に向けてがんばるということで、目標を変更いたしました。

あくまでも7月末に（高齢者へのワクチン接種を）終わりたいということのでがんばっております。

前倒しにあたっては、接種体制の強化が必要だということでもあります。先ほど集団接種の拡充という話をさせていただきましたが、もう一つ、個別接種について、当初（はこれを）中心に（したい）と考えていたことではありますが、各医療機関での接種回数の上乗せを富山市医師会等を含めてお願いしているところでもあります。

富山市医師会からも非常に前向きな返事をいただいておりますが、実際にどれくらい上積みできるかはこれからとなりますので、こちらのほうはしっかりとお願いをしていきたいと考えております。

先ほども申しあげました集団接種の拡充について少し補足します。

当初計画に追加する形で、西保健福祉センター、まちなか総合ケアセンター、八幡公民館、富山国際会議場、水橋ふるさと会館、テクノホールの計6会場、延べ30日間を開催するほか、各会場での接種人数の上乗せも行ったところでもあります。

その結果、接種可能人数は約4,300人であったものが、約5,700人増加し、合計で約10,000人となったところでもあります。

次に、個別接種の回数の上乗せにつきましては、国が個別接種促進のための新たな支援策として、接種数の多い診療所への接種委託料の加算措置などを示しました。

各医療機関での接種回数が上乗せされると我々としても期待しているところでもあります。

また、先ほども申しあげましたが、市医師会に対して協力を要請いたしましたところ、各医療機関において積極的に取り組んでいただいております。はっきりとした数値はこれからではありますが、一定の上乗せは期待できるものと見込んでおります。

また、県でも接種会場の設置を発表されましたが、県内全域で高齢者の接種が進むよう、本市も県と連携して取り組んでまいりたいと考えております。

本市では、当初 65 歳以上の高齢者（約 12 万 7 千人）に対するワクチン接種の計画を策定するにあたり、昨年度無料化の上、実施した高齢者へのインフルエンザ予防接種の接種率が約 7 割であったことから、この 70% という数値を（コロナウイルスワクチン接種を）希望される想定のパークセンテージとしていたわけです。

そのため、どうしても（高齢者への接種は）8 月中（に完了）ということを目標としていたところでもあります。

この目標だったら無理なく（ワクチン接種を）行えるだろうと、先ほどの焼き直しのようになりますけれども、そういうふうに当初は目論んでいたということでございます。

その後、何度も申し上げますが、国からの前倒し要請を受けて、先ほど申し上げたように、集団接種の拡充と個別接種体制の強化をお願いした結果、接種希望者が想定どおりの 7 割であれば、7 月末までに完了できるという見込みを今、立てているというところでもあります。

これ以上に（接種希望者が）増えた場合は、（8 月に）ずれ込む可能性もゼロとは言えないわけですが、とにかく、いろいろな方々のご協力をいただきながら、我々当局も必死になっておりますので、7 月末（の完了）を第 1 目標として、今後とも頑張ったいと考えております。

記者

コロナウイルスワクチンの接種率を約 7 割だと想定した上でならば、7 月末の完了はできるとお考えなのですね。

市長

当初、インフルエンザの事例を踏まえて、（接種率が）70%で8月末（の高齢者接種の完了）ということを進めていたわけですが、国の要請を受け

て接種体制も強化した結果、約7割の申請数であれば7月末までに完了できるという自信を今、持っておりますけれども、それ以上増えたものに対しても、あくまでも目標をそこに置いて、頑張っていきたいということです。

記者

6月補正予算案について何点か伺います。まず、今回の予算編成にあたって、どのような思いで臨まれたのか、ご自分の考えをどう反映させたのか、改めてお聞かせください。

市長

私は「幸せ日本一とやま」を目指すという大きな目標を掲げて市長に当選させていただいたということであります。

まず、第一に取り組むのは新型コロナウイルス対策であります。

特に今回は、感染防止が一つと、何と言いましてもワクチンをとにかく早く、希望される方々に接種していただくということが大命題であると考えております。

経済対策や子育て支援等の対策も私の公約でありましたが、ワクチン接種のスピードをとにかく速くすることによって、日常の経済政策にもなり、人々の（日常の）暮らしが戻ってきて、経済が回っていくという好循環につながっていきますので、ここをまず第一に行っていきたいと思っています。

また、子どもたちへの教育や人づくりにも力を入れると申し上げてきましたが、これは森前市長のときから（取り組んでいた）水橋地区の義務教育学校の件であります。水橋地区の方々にしっかりとご議論をいただきまして、その第一歩として今回予算付けできるということになりました。

このことは水橋地区のみならず、引き続き、同じような課題を抱える地域の声もしっかりとお聞きして、その地域に必要なことを順次、事業化していきたいと思っています。

また、富山市スマートシティ推進ビジョン策定支援の業務委託料も計上しておりますが、これはまさにコンパクト&スマートシティという、森前市長が今まで取り組んでこられたコンパクトシティ政策の恩恵を郊外にもしっかりと届けながら、しかも中心市街地という一つの装置を完成させるという中で、スマートシティも入れ込んでいく、そのためのビジョンづくりという大事な予算となります。

このビジョンは1年だけでは策定できなくて、もう少しかかるということですが、庁内外からいろいろなアイデアをいただきながらしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

そのための推進本部会議の第1回目を本日開催したところであります。

庁内のワーキンググループも立ち上げましたし、大いに議論して市民の皆さんの声も取り入れながら、どのようなスマート化が市民の皆さんにとって必要なのかという声を聞きながら丁寧に進めてまいりたいと思っています。

こうしたことなど、出来得ることから一つずつ事業化していくという姿勢で臨みたいと思います。

記者

今回の補正予算編成にあたって、思ったより予算がないなといったような率直な感想があればお聞かせください。

市長

そういうことは決してなくて、市民の皆さんの血税でありますし、大事な予算ですので、しっかりと無駄のないように使っていきたいと思いました。

その上で、以前、リーマン・ショックという国、県、市町村の財政に大変大きな影響を与えた事件がありましたが、今回のコロナの影響は、それに匹敵するか、それ以上ではないかと言われておりますし、あの（リーマン・ショックの）ときは観光や公共交通事業者などを含めて、今回ほどの急激な痛みは受けませんでしたよね。

（今回のコロナ禍では）急激に痛みを受けた業種、業界の皆さん、事業

者さんがいらっしゃいますので、こういう方々を含めて、今後どうやって富山市としてそういう方々のサポートをできるのかということですが、これは県、市だけでは絶対に無理なので、国に要望するとか、県とともにスクラムを組んで進めるとか、そうしたことも含めて予算を編成するという意味ではそう感じました。

市だけではできないことはたくさんあるなということやはり感じました。

一方で、市の単独でしっかりと色を出していかなければならない部分は、例えば教育にしても、子育て（支援）にしても、今回の事業者支援にしてもそうであります。

市単独でもやらなければならないことはしっかりと予算を付けていきたいと思えます。

記者

今回のいわゆる「肉付け予算」の部分ですが、当初予算から今回の補正予算に積み残したものなどがあると思うのですが、それらをそのまま計上したという形なのか、それともいくつかご自分の考えで出したというものもあったのでしょうか。

市長

もともと^{そじょう}狙上に上がってきていなかったものも、もちろんあるわけですが、緊急度や重要度を鑑みて必要と思われるものはできるだけ計上させていただいたという形になっております。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課